

氏名	浅川 徹
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3229号
学位授与の日付	平成10年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Cervical Carcinoma: Dynamic MR Imaging with a Turbo-FLASH Technique (子宮頸癌: Turbo-FLASH法を用いたダイナミックMRI)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 岡田 茂 教授 田中 紀章

学位論文内容の要旨

60人の子宮頸癌患者を対象にTurbo-FLASH法を用いたDynamicMRIでの子宮頸癌の特徴的な所見を評価しDynamicMR像と摘出標本の病理所見を比較することによって腫瘍の周囲に見られる高信号rimの原因を調べた。子宮頸癌の大部分はDynamicMRIの早期像で正常頸部間質より高信号に描出された。DynamicMRIでは96.7%(58/60)、造影T1強調SE像では83.3%(50/60)に描出可能であり、DynamicMRIの方が良好であった。また、扁平上皮癌の方が腺癌より造影効果が高かった。

DynamicMR像と病理所見の比較から高信号rimの出現時期により4型に分けられ、それぞれ違う病理所見を示した。後期像でのみ見られる高信号rimの外層のすべてが、圧迫された正常頸部間質であり、腫瘍は頸部に限局していた。これは子宮頸癌の傍組織浸潤を評価する上で有用な根拠となりえると思われた。

病変と正常頸部間質とのコントラストが高いTurbo-FLASH法を用いたDynamicMRIを、造影T1強調SE像を得る前に行なうことは子宮頸癌患者の術前検索に有用と思われた。

論文審査結果の要旨

本研究はTurbo-FLASH法を用いたダイナミックMRIでの子宮頸癌の特徴的な所見を評価し、ダイナミックMRI像と摘出標本の病理所見を比較することによって腫瘍の周囲に見られる高信号rimの原因を調べたものである。子宮頸癌におけるダイナミックMRI像と病理所見の比較は本研究がはじめてであり、高信号rimを示す病理組織像についても重要な新知見を得ており、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。